

国際教師力研究会 NEWSLETTER

2020年5月4日 No.3

パンデミック下のアメリカ公教育ルポ

井尾愛子 ニューヨーク市立大学ハンター校大学院幼児教育学修士
元ハワイ州公立小学校キンダーガーテンクラス担任 国際教師力研究会アメリカ事務局



アメリカで遠隔教育が本格的に始まっています。私から見て、日本とアメリカの子供にとって、今の状況の一番の違いは、アメリカでは4月中旬現在で2,200万人がこのパンデミックのために職を失っていて、不安でいっぱいな家庭が非常に多いということではないでしょうか(1)。もともと公立小中高校の生徒の家庭の半分以上が低所得層で、このパンデミックの打撃は精神的、金銭的に多大だと思います。親の不安感は隠していても子供達に伝わるでしょう(2)。

今アメリカの教育者たちが声を大にして言っているのは、新しいことを教えるよりも、生徒たちのメンタル面をサポートする事が大切だと言うことです(3)。学業の遅れは取り戻せるけれど、トラウマはなかなか癒えない。週に2、3回はビデオカンファレンスを行なって、学校やクラスルームという子供達の大切な居場所を維持してあげること、ビデオカンファレンスでは毎回このパンデミック下の日々の経験を子供達が話し合い、共有できるように担当がリードすることなどが、カリキュラムをこなすことより大切だと言われています。(アメリカ版の特活のようですね。)

実は私は遠隔授業というのは、始業時から終業時までリアルタイムで教師がビデオカンファレンスで教えることだと思っていました。それに近いことを実際やってる私立校や大学もありますが、リアルタイムでビデオカンファレンスで教えるということは、情報格差(インターネットや端末を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる、貧富や機会、社会的地位格差)を大きくしてしまう原因となります。なぜなら、公立小中高校では端末やインターネットへのアクセスがない家庭や、また、端末やインターネットアクセスがあったとしても家族全員で一つの端末を共有している家庭やデータが制限されている家庭もあり、リアルタイムで参加できない生徒が多いのです。

そこで情報格差を少なくするために、私が教えていたハワイの公立小学校も含め多くの学校では週に2、3回

ビデオカンファレンスで授業をし、あとはウェブを使った課題(教師が前もって録画した授業を見るなど)と、紙と鉛筆でできる課題の3つの伝達形態から自由に選べるようにしています。

またフィラデルフィア学区のように、情報格差をなくすために、インターネット、電話、端末など、手段がなんでもあっても教えることを禁じる、という学区や、そういう学区に対してインターネットを使える環境にいる生徒たちがいるのに、情報格差を恐れるあまり使わないのは間違っている、というPTAなど、色々な議論が熱く飛び交っています(4)。また家に端末がない生徒には、学校の端末を貸し出していますが、端末が足りない学区もたくさんあるのが現状です。インターネットアクセスがない家庭にはスクールバスをWi-Fiの使えるホットスポットにして学区のいろいろなところに設置したりしています。ただ端末やインターネットアクセスがあっても生徒や保護者が使いこなせなかったら意味がなく、しかしながら生徒と保護者のトレーニングがこの外出禁止令のもとでは難しく、更なる課題となっています。

このパンデミックで遠隔教育がこれからは主流になるかもしれない、と言う声も聞きます。ですが、最近Social Emotional Learning(対人関係能力育成)の必要性が叫ばれ始めたアメリカでは、このパンデミックのおかげで、テクノロジーでは補えない、学校やクラスといったコミュニティの大切さ、教師と生徒の繋がり、対面授業などの大切さが浮き彫りになるだろうという意見が多数派です。また、ただでさえストレスが多大なこの時期に課題の出しすぎは生徒や保護者にストレスを与え、学校への不信感が生まれかねないので、通常1/4くらいの量を勧める学区もあります(5)。また私の教えていたハワイの小学校では毎日課題を出すのではなく1週間に一度にして、兄弟との端末の共有や、親の仕事の都合などにも柔軟に対応できるようにしています。

この混乱の状況下でも、子供達の心のケアが何よりも大切と言う声が多く聞かれることは驚きでもあり、嬉し

いことでした。

【注釈】

(1)Long, Heather, U.S. now has 22 million unemployed, wiping out a decade of job gains, *Washington Post*, April 17, 2020. <https://www.washingtonpost.com/business/2020/04/16/unemployment-claims-coronavirus/>.

(2)Kamenetz, Anya, The Biggest Distance-Learning Experiment In History: Week One, NPR.org, March 26, 2020.

<https://www.npr.org/2020/03/26/821921575/the-biggest-distance-learning-experiment-in-history-week-one>.

(3)Walker, Tim, Social Emotional Learning Should Be Priority During Covid-19 Crisis, National Education Association, April 15, 2020. <http://neatoday.org/2020/04/15/social-emotional-learning-during-covid/>; Mandy Froehlich et al., 12 Ways You Can Meet Students' Social-Emotional Needs While Teaching Online, Apple Podcast; Teachers Aid, March 28, 2020.

<https://podcasts.apple.com/us/podcast/12-ways-you-can-meet-students-social-emotional-needs/id368754208?i=1000469831709>

(4)Wolfman-Arent, Avi, Philly schools forbid graded 'remote instruction' during shutdown for equity concerns, *The Philadelphia Tribune*, March 18, 2020.

https://www.phillytrib.com/news/health/coronavirus/philly-schools-forbid-graded-remote-instruction-during-shutdown-for-equity/article_71e49569-ee6a-5d63-a89e-7e48188319a9.html

(5)Sherrin, David, Maslow Before Bloom's: Clarifying Our Priorities As Teaching Goes Online, BAM Radio; K12 Greatest Hits, March 24, 2020



この写真は、プロジェクト・ベースド・ラーニングを取り入れているハワイ島のイノベーションズ・パブリック・チャータースクールの私のキンダーガーデンクラスの生徒達です。この日はカリキュラムシェアで3-4人のグループに分かれてやったプロジェクトを、保護者や別学年の生徒たちに発表。ただの研究結果ではなく、わかったことをどのようにコミュニティのために役立てられるかを考えさせ、子供であっても大人より知識を深めることができること、知識はパワーだということを体験させ、自信をつけさせます。

執筆者紹介

国際教師力研究会 アメリカ事務局
井尾愛子

幼少時をニューヨークで過ごし、慶應大学法学部政治学科を卒業後、アメリカで教育学を勉強するために28歳で周囲の反対を押し切って単独ニューヨークへ。Early Childhood Education（0歳から小学2年生まで）の修士をとり、マンハッタンの幼稚園で7年間、ハワイ州のInnovations Public Charter Schoolでキンダーガーデンクラスを5年間担任しました。そのハワイの小学校はProject Based Learning を取り入れた全人的な教育を目指している小中学校で、ハワイの海を楽しむような暇もないくらい忙しかつたのですが、学ぶことの多い幸せな教師生活でした。今はまたニューヨークで全人的な教育をしている学校を探索中です。例えば、小学生の時にニューヨーク日本人学校で南部和彦先生（国際教師力研究会）に担任していただき、「先生って面白い職業かも！」と思ったのが始まりです。南部先生に日本の特活を紹介して頂き惚れこみ、恒吉先生の「多文化共生力」の向上運動にも惚れ込みました。文化のるつぼのニューヨークシティで文化の違いを楽しむのが大好きです。どうぞよろしくお願いたします。

国際理解まめ知識

キンダーガーデンと言うと日本では幼稚園と訳されるのですが、アメリカではKindergarten (K)は小学校の一番下の学年のところが多いのです。義務教育はK~12年生で、一般的に小学校がK~5年生、中学校が6~8年生、高校が9~12年生となっています。日本の幼稚園はPreschool と称されます。

発行/国際教師力研究会

<https://globaledumulti.jimdofree.com/>
E-mail: globaledumulti@gmail.com